

各常任委員会行政視察報告

総務企画委員会

視察日 7月10日～12日
視察市 愛知県長久手市、岐阜県各務原市
視察項目

- 長久手市
- 各務原市
- 住民プロジェクト推進事業
- 人口増加の要因と取り組み
- シティブロモーション
- DIY型空き家リノベーション事業

住民プロジェクト推進事業 人口増加の要因と取り組み

名古屋市及び豊田市の近郊都市として人口が増加し、平均年齢が低い長久手市だが、人口減少と高齢化の進行に備え、「日本一の福祉のまち」を目標にそこに暮らす人たちが支え合う絆で結ばれた「幸福度の高いまち」を目指している。

市民と市職員と一緒に、地域の課題を地域で考え、地域で取り組む「新しいまちづくりの仕組み」づくりを行っており、この新たな住民協働プロジェクトは、次世代のまちづくりの担い手の発掘・育成、そして市民一人一人に役割と居場所がある（＝たつせがある）まちの仕組みづくりを目的として実施している。プロジェクトは、1. 職員勉強会、2. たつせがあるフォーラム（市民交流会）、3. 市民ワークショップ（市民協働プロジェクトチーム）で構成されており、1. では、時代が求める職員になるべく、市の若手職員による勉強会「長久手おむすび隊」（長久手を結びた



い！の思いからの愛称）による、事例研究や他地域に出かけてのヒアリングの手法、ワークショップのファシリテーションの方法、そしてプロジェクトの企画方法などを実践的な演習形式で学び、2. では先進地の事例を学んだり、講師や市長を交えてトークセッション方式でフォーラムを開催している。＊「たつせがある」とは、「立つ瀬がない」の対義語として市がつくった造語で、市民一人一人に立場と居場所をつくり、みんながまちのこと、身の回りのことに取り組もうとする意思表示。

シティブロモーション

「選ばれる都市」の実現に向けて、市のブランドイメージを確立し、移住定住人口の増加につなげるため、平成28年2月に「各務原市シティブロモーション戦略プラン」を策定し、東海3県に居住している20～30代の若い世代をメインターゲット層に設定し、「ちよつといい暮らし」を提案している。また、まちのよさを市民みずから掘り起こし、再認識することで「まちへの誇り（シビックプライド）」を醸成し、「まちの魅力」として、市民みずから発信することで、まちのイメージ向上を図る「価値共創シティブロモーション」に取り組んでいる。

DIY型空き家リノベーション事業

「空き家を手放す気はないけれど、活用したい」という所有者と、「住宅を購入する気はないけれど、DIYをして自分らしい暮らしをしたい」という借主のマッチングや契約までの流れを、市・民間企業・大学・金融機関が四位一体となってサポートする「借主負担DIY型（貸主が修繕義務を負わない代わりにやや安く貸し出し、借主が自費で修繕を行い、退去時は原状回復義務がない契約のこと）空き家リノベーション事業」を行うこと。（渡邊正人）

日本海六県港湾都市議会 協議会総会を能代市で開 催しました

7月30日に、旧料亭金勇で日本海六県港湾都市議会協議会総会を開催しました。

同協議会は、外航船が出入港する国際貿易港湾がある日本海沿岸の秋田、山形、新潟、富山、石川、福井6県の14市議会で構成され、港湾の整備促進や利活用について国への要望活動を行っています。能代市では平成25年以来6年ぶりの開催となりました。

日本海沿岸の港湾整備等に関する要望として、次の2項目が承認され、要望書を国土交通省東北、北陸両地方整備局に提出しました。

- 環日本海交流を支える国際貿易港湾の整備
- 災害に強い港湾の整備促進

